

主な災害

本県は地形・地質的に災害に弱く、古来より度々大きな被害を受けてきた。砂防事業に関してもその始まりは、昭和9年(1934)の室戸台風災害による復旧であった。また、昭和39年(1964)の山陰・北陸豪雨災害の山崩れ、がけ崩れによる被害は、

国の急傾斜地崩壊防止工事に対する国庫補助の創設に大きな影響を及ぼした。ここでは主な災害を以下に紹介する。(なお、各災害と砂防事業との関わりについては第2章 砂防事業の変遷を参照)

1 昭和9年災害

この災害によって、砂防事業の必要性を認識した本県は、ここに事業の第一歩を記すこととなった。

この点において本災害は、本県の砂防事業にとって非常に大きな意味をもつものと言えよう。

この災害は、昭和9年(1934)9月20日の夜から翌21日にかけて室戸台風がもたらしたものである。被害は全県下にわたり、総被害額は1,845万円、山崩れ等130カ所に及んだ。

流出により堤防が決壊し、大小溪流は完全に埋没した。この災害に対する復旧工事として、本県では初めて砂防工法を用い、ここに本県の砂防事業の第一歩を記したのである。

特に、斐伊川水系大馬木川流域は多量の土砂の

【新聞記事による被害の様子 ～山陰新聞見出しより～】

■9月21日

- 降雨引き続いて島根県下に出水
各地に被害続出し 出雲地方特に警戒
- 能義平原部は泥海と化す
飯梨伯太両川増水し堤防決壊して大浸水

■9月23日

- 島根県下の惨たる水禍の跡
地方人心恟々たり
- 水害後始末に安来町の大混雑
二十二日漸次減水し無惨な水害のあと

■9月22日

- 島根県下も水害地獄を現出す
江川は一丈三尺増水
- 目も当てられぬ農作物被害状況
稲作百万石を割るは必定 天候回復するを待つのみ
- 全県下に亘る被害見込み立たず
島根県土木課では急遽調査を開始す
- 木次線鉄道山崩れで不通
斐伊川十二尺増水 里熊橋を残して橋梁全部流出す
- 土砂崩壊を避けて 自動車江川に墜落

■9月25日

- 島根県が対策協議
参事会、課長会議と被害町村長協議会

■10月4日

- 水害根絶のため 大造林計画
島根県山林課では明年度予算に計上

雨量観測表

(日界：9時) 単位：mm

観測地	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	合計
松江	70.5	116.6	2.3	45.0	234.4
阿井	68.7	153.4	33.4	—	255.5
三成	100.0	152.0	26.0	—	278.0
大東	93.8	144.2	22.4	1.8	262.2
広瀬	93.8	228.0	8.8	6.5	337.1
馬木	135.8	223.3	1.3	—	360.4
鳥上	81.7	148.8	20.9	—	251.4
掛合	98.7	158.1	4.8	2.2	263.8
浜田	67.4	108.5	5.5	—	181.4

出典：「しまねの砂防」

河川の水位状況

河川名	日	時	最高水位 (m)	警戒水位 (m)
斐伊川	21	11	(下流) 3.22	2.12
斐伊川	21	6	(上流) 4.00	—
大橋川	22	1	1.83	1.03
伯太川	21	8	3.63	2.10
飯梨川	21	8	3.21	1.80
平田船川	21	11	2.00	1.06
新川	21	11	3.30	2.00
赤川	21	8:30	4.30	2.10
大馬木川	21	6	1.80	1.20
神戸川	21	12	3.84	2.83

出典：「しまねの砂防」

一般被害状況

人 (人)	死者	15
	負傷者	14
	計	29
家屋 (戸)	全壊	42
	半壊	86
	流失	22
	浸水	7,204
	計	7,354
田畑冠水 (ha)		669
田畑流失埋没 (ha)		22,260
農作物損害額 (円)		3,730,000

出典：「しまねの砂防」



大馬木川流域の被害状況（仁多郡横田町）

土木関係被害概況

区分	災害箇所等	被害額 (円)
道路	537,919m	915,992
橋梁	1,132箇所	1,217,352
堤防関係	250,226m	3,821,553
計		5,954,897

出典：「しまねの砂防」



水没した連坦地（仁多郡横田町）

■馬木村村長 佐佐木英一氏

昭和9年（1934）の室戸台風による災害を機に、本県で初めての砂防事業が、昭和10年（1935）仁多郡横田町の斐伊川水系大馬木川において着手された。この砂防事業にあたり、私財をなげうって事業を推進したのが、当時の馬木村（現仁多郡横田町）村長であり、県議会議員でもあった佐佐木英一氏である。

斐伊川水系大馬木川流域の馬木村は、室戸台風によって一面土砂に埋め尽くされるという激甚な被害を受けた。このような状況に対して、佐佐木氏は県と協力して、国に対し、馬木村における治水砂防事業の必要性を、不眠不休で訴えた。こうした努力の末、昭和10年より斐伊川水系大馬木川において、本県初の砂防事業が着手されることとなったが、その際、佐佐木氏は所有していた百町以上の山々の全てを売り、事業を推進したと言われている。